
モグラの苦勞

坂田火魯志

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モグラの苦勞

【Nコード】

N2546P

【作者名】

坂田火魯志

【あらすじ】

友達の鼠さんに太っているとわれダイエットをしようと決意したモグラさん。しかしモグラ故に。モグラはそれだけ食べないと死んでしまいます。

第一章

モグラの苦勞

モグラはある日。自分のお家に遊びに来ている鼠に言われました。

「なあモグラさん」

「何だい？」

「あんた最近太ったんじゃないかな」

「こつモグラに言ってきたのです。」

「そうじゃないかな」

「えっ、太ったかな」

「うん、一回体重見てみたらいいよ」

「体重ねえ」

「君だつて太り過ぎは嫌だろ？」

「勿論だよ」

鼠の問いに迷うことなく答えます。

「太り過ぎたら女の子に嫌われるじゃないか」

「よくデブは嫌だつていう女の子いるからね」

「それはモグラでも同じなんだよ」

「そうだよね、やっぱり」

「だからだよ」

モグラは必死の顔で鼠に対して話します。

「太るのは絶対に嫌だよ」

「じゃあどうするんだい？」

「決まつてるさ、ダイエットだよ」

モグラはその必死の顔で言いました。

「今からそれをするよ」

「今からなんだ」

「うん、じゃあ早速ね」

モグラはまた鼠に対して話します。

「今日から食べる量を減らすよ」

「それで減量するんだね」

「うん、そうさ」

「それはわかったけれど」

ところがです。鼠はここで腕を組んで難しい顔になります。二匹はお互いの家の間の通り道で向かい合って話しているのです。

「できるかな」

「できるさ」

「いやさ、君はモグラだけれど」

「モグラだから問題だっていうのかい？」

「ううん、それよりもさ」

鼠はいぶかしむモグラに対して腕を組んだまま首を左に傾げさせてさらに言います。

「食べるものを考えたりとかさ。運動をしたりとか」

「いや、食べ過ぎるから太るんだらう？」

「それでもだよ。君はモグラだから」

「モグラだから何だっていうんだよ」

「それはどうなのかな」

また言う鼠でした。

「だからそれはね」

「いや、僕はやるよ」

しかしモグラはまだ言います。鼠にどうかと言われてそれでかえって意固地になっているという一面もそこにはありました。

「絶対にね」

「ううん、そこまで言うのなら」

「鼠君、応援していて」

モグラは笑顔で鼠に対して告げます。右手を拳にして少し振ってさえます。

「僕絶対に痩せて格好よくなるからね」

「じゃあ頑張つてね」

こうしてモグラのダイエットがはじまりました。モグラは彼が言った通りに食べようとしません。しかしそうするとすぐにでした。

「あれっ？」

何かです。身体の調子がおかしいのです。

「身体が思うように動かない。何でかな」

自分でも不思議に思います。しかしです。

それでも自分が決めたことだから。食べようとしません。彼はそれは貫こうとします。

それでそのままいます。するとです。

身体の調子がさらにおかしくなり余計に動かなくなります。それで目が回って遂にはです。その場に倒れ込んでしまいました。

「うう、まさかこのまま」

モグラは薄れゆく意識の中で思うのでした。

「死ぬのかな、どうなるのかな」

「大丈夫かい？」

しかしここで、でした。声が出てきました。

「モグラ君、大丈夫かい？」

「その声は鼠君かい？」

「そうだよ、僕だよ」

その鼠でした。ぼんやりとなってしまうている目で必死に見るとです。彼の輪郭が確かに目に見えました。

第二章

それで、です。その鼠に対して問います。

「何でここにいるの？」

「心配になつて来てみたんだよ」

「だからだということです。」

「それでなんだ」

「心配つて」

「はい、これ」

鼠はここで一匹の大きなミミズを出してきました。

「これ食べて」

「えっ、けれど」

「君はこれを食べたなら死ななくて済むよ」

「何でなの？」

「それは後で話すから」

今そのことについて話そうとはしません。

「とにかくね。食べて」

「うん、それじゃあ」

モグラはともかくにも鼠のその言葉に頷きました。死にそうなる今の状況では彼のその言葉はまさに福音でした。それで、です。

そうしてその差し出されたミミズを食べるとです。実際にモグラはかなり元気になりました。

元気さを取り戻してです。モグラは鼠に対して言います。

「あかさ」

「何で死にそうになったかだよね」

「うん、それはどうしてなのかな」

「それは君がモグラだからなんだよ」

「それでだということです。」

「だからなんだよ」

「モグラだからって」
「モグラは一日で自分の体重の半分を食べないと駄目なんだよ」
「えっ、そうだったんだ」
「そうだよ。このことは知らなかったのかい？」
「うん、今はじめて聞いたよ」
モグラは驚いた顔で鼠に対して答えます。
「そうだったんだ」
「そうだよ。だからあの時どうかなって言ったんだ」
「ううん、そうだったんだ」
「けれどこれでわかったよね」
「うん」
鼠の今の言葉に素直に頷きます。
「死にそうになったしね。そうだったんだ」
「そうだよ。それでね」
「それで？」
「もう絶食は止めるよ」
懲り懲りという顔です。
「もうね」
「そう、止めるんだ」
「流石に死んだら元も子もないじゃない」
こう鼠に話します。
「ダイエットをして死んだらね」
「そうそう、ダイエットは格好よくなったりする為のものだしね」
「僕の場合は女の子にもてる為だね」
「女の子にもてる為に死にたい？」
「まさか」
このことは笑って否定します。
「死んだら女の子にもてないじゃない」
「生きている女の子にはね」
「じゃあ何の意味もないよ」

モグラはここでも笑って言います。

「それじゃあね」

「じゃあここはね」

「食べないと駄目なんだね」

「そう、絶対に駄目だよ」

こう話す鼠でした。

「それだからね。ここはね」

「ここは？」 6

「食べてそれでだよ」

鼠はモグラに対して話します。

「それで痩せないよね」

「食べて痩せる？」

「そう、食べて痩せるんだよ」

また鼠に話します。

「そうしようか」

「食べて痩せるって」

「運動をすればいいんだ」

鼠が言うのはこれでした。

第三章

「そうすればいいんだよ」

「運動ねえ」

「そう、君は一日に体重の半分を食べないと死ぬんだから」

「このことはどうしてもでした。とにかくモグラはです。それだけ食べないと死んでしまいます。さっき実際に死に掛けています。」

「だからそうしないとね」

「ううん、じゃあ」

「そう、まずは食べよう」

鼠はまた言いました。

「食べていいんだよ」

「痩せたくてもね」

「僕も確かに不用意なことを言ったよ
最初のことを思い出しての言葉です。」

「それはね」

「ああ、太ったって言葉だよね」

「それは不用意だったよ、御免ね」

「このことは素直に謝る鼠でした。」

「けれどそれでもね」

「それでも？」

「友達だから。君が変に痩せようとするとな
それで言うのでした。」

「心配だからね」

「だから言ってくれてるんだね」

「そういうことさ。じゃあ食べてね」

「うん」

「そうして痩せて」

こつモグラに話します。

「そうしてくれよ」

「わかったよ。それじゃあね」

「うん、それじゃあ」

「食べよう」

鼠は笑顔でモグラに言いました。

「そしてね」

「痩せようか」

「うん、そうしよう」

こうしてでした。モグラはまたダイエットをはじめました。そして今度のダイエットはです。ふらふらになって倒れることなく見事に痩せられたのです。

そのモグラに彼女ができました。彼はこのことを鼠に幸せな顔で話します。

「いやあ、よかったよかった」

「そうだね。よかったね」

「本当によかったよ」

こう言うのでした。

「痩せたお陰だよ」

「そうだね。けれどね」

「うん、よくわかったよ」

モグラは真面目な顔になって鼠に返します。

「下手に食べないダイエットはね」

「そう、死んじゃうよ」

「よくわかったよ、それはね」

「ダイエットは無理なくだよ」

また話す鼠でした。

「わかったね」

「よし、それじゃあね」

「これからも食べて痩せるよ」

こう話してでした。そのうえでそのスタイルを維持するモグラで

した。そして彼は食べ続けます。そうしながらのことでありました。

モグラの苦勞 完

2010・9・5

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2546p/>

モグラの苦勞

2010年12月1日20時55分発行